

第4回

永崎地区防災緑地ワークショップ かわら版

津波防災のまちづくり（永崎地区）では、今後数十年から百数十年の頻度で発生すると想定される頻度の高い津波に対して、海岸堤防の整備により人命や財産を守ることとしておりますが、今回と同様の津波や、それを上回る津波に対しては、海岸堤防の背後に津波エネルギーの減衰や漂流物の捕捉効果を発揮する防災緑地を整備することとしております。

そうした防災緑地の整備計画に際して、地域の方の意見や色々な視点のアイデアを計画に反映させ、親しまれる防災緑地とすることを目的として、地域の皆さんと共に全4回ワークショップを行ってまいりました。

各回、大勢の地域の方に参加いただき、また、様々な意見をいただき誠にありがとうございました。

最終回の第4回ワークショップでは、地域の方々に親しまれる防災緑地とするために、前回第3回ワークショップの意見を反映した防災緑地の修正計画素案を広げて、『プランについての質問や修正意見』、『防災緑地の管理』について、グループで話し合いを行いました。最後に各グループから出た意見を全体で討議していただき、地元ワークショップの意見を反映した最終計画案の合意と、管理に対する今後の課題等を整理しました。

永崎地区防災緑地ワークショップ 全4回の流れ

- 第1回ワークショップ
ステップ1：防災緑地を知ろう！
- 第2回ワークショップ
ステップ2-1：こんな防災緑地がいいな！
- 第3回ワークショップ
ステップ2-2：防災緑地の計画案をつくろう！
- 第4回ワークショップ **今回実施**
ステップ3：こんな防災緑地になる！



第4回 永崎地区防災緑地ワークショップ プログラム

日時：平成25年6月25日（火）18:30～20:30
場所：市立江名中学校 会議室
参加人数：18名

1. はじめに
 - ・開会の挨拶
2. 第3回ワークショップのふりかえり
 - ・かわら版の説明
 - ・本日の予定
3. 全体会議
 - ◆修正計画案の説明
 - ◆最も重要と思うこと（コンセプト）の説明
5. グループワーク
 - ◆これからの利活用と管理について
 - ◆修正計画案に対する質問と修正意見
 - ・発表
6. まとめ
 - ・本日の振り返り
 - ・今後の予定
 - ・講評（廣瀬先生、木田先生）
 - ・閉会の挨拶

◆永崎地区防災緑地ワークショップを終えて◆

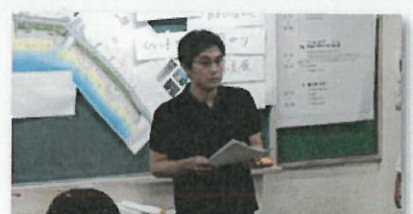
廣瀬先生による講評

「生活の再建が大変な中で、公共施設のことを考えていただき、その中で多くの意見が出てきたことはよかった」と、全体を振り返った。

また、国・県・市それぞれの管理主体が変わることもあると思うが、4回のワークショップを通じて皆さんから出てきた大事な意見を国・県・市が共有できるようにして、こぼれ落ちないようにしていただきたいと、あいさつを行った。

管理については、皆さんがただ作業をしなければいけない、時間を無駄にしなければいけないというのではなく、楽しいことと勉強になること、労働を組み合わせることで地域を作り直していけるような感じの管理を目指してほしい。

今後も地域の人々を中心に県や地区で、こういった話し合いの場を持ち、管理方法や利活用方法を一緒に行っていければいいと思う。など、今後についての想いを説明した。



廣瀬先生のあいさつ

木田樹木医による講評

ワークショップは今回が最終回ですが、これで終わりというのではなく、むしろここからが行政の方とのやり取りのスタート、我々専門家と住民のスタート地点に立った感じであると、あいさつを行った。

また、「緑地は、できた時が完成ではなくスタート」ということ。実際に、地域の人々が生活の中で樹木を育てていって、愛でる人がいないと緑地は成り立たないものだと感じている。と、緑地についての想いを説明した。



木田樹木医のあいさつ

「永崎地区防災緑地ワークショップも4回と回を重ねて行ってきました。景観や環境、防災の意見やアイデアをいただき、皆さんの考える防災緑地計画を取りまとめて行きたい」と、あいさつを行った。



秋山区長のあいさつ

■今後のスケジュールについて

初めに海岸堤防の工事が始まり、その後防災緑地を行うが、事業着手時に説明会を開催します。防災緑地については、今年度末から来年度に盛土工事に着手し、26年度から植栽を行う予定です。



グループ討議

地域の方々に親しまれる防災緑地とするために、防災緑地の修正計画案を広げて、『プランについての質問や修正意見』、『防災緑地の管理』について話し合いを行い、最後に全体で討議していただき、地元ワークショップの意見を反映した最終計画案の合意と、管理に対する今後の課題等を整理しました

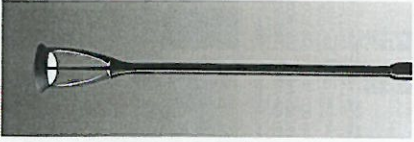
『プランについての質問や修正意見』、『防災緑地の管理』についての取りまとめ

- **バーベキュー利用者のマナーが大変悪い。水飲み場があると助長する可能性があるため、取り払った方がよい。**
【討議内容】：水飲み場がなくても自分で水を持ってきてやるので、バーベキューをやれる所を作ってきちんと管理すればよい。
 - ・公園でバーベキューをするなら、ゴミの問題など、マナーをきちんと守れるようになってから、初めて導入するかどうかを検討すべきで、今の段階では必要ない。
 - ・バーベキュー以外にシャワーにも使われていた。本来の目的を逸脱しているのだから必要ない。
 - ・あるがゆえにバーベキューなど目的外の利用をされる。元々ないと考えれば余計な心配をすることはしない。
 - ・水飲み場を作らなくてもいいが、散水栓をつくり、鍵を県と市など何人かが管理する。散水栓まで引いておけば、後で水飲み場を設置することができるのではない。【討議結果】：散水栓を設置しておき、将来、水飲み場が必要となれば水道管から分岐して設置。**今日の段階では水飲み場は造らない。**
- **公園的要素が強く、本来の防災の目的が薄れている。もっと木を密に植えて、防災のために考えて欲しい。**
【回答】：天端の平坦部にも樹木を植える計画に変更している。**国の基準で9㎡に1本高木を植えれば減衰効果があるという研究成果があるのでそれに基づいて設計している。**
- **ファミリーマートの南側にあった消波ブロックが図面ではなくなっているが設置してもらえるのか。**
【回答】：図面に書いていないが、**消波ブロックは設置する。**
- **低い県道に下りてから高台に避難するのは効率が悪く、緑地の高さのまま、避難できる歩道橋は造れないのか。**
【討議内容】：県道は交通量が多く、また、車はパニックになっているので避難する人が横断できない。
 - ・防災のための防波堤なので、避難優先で考えて欲しい。車がたくさん通ることを想定しないと、渡れるのを待っている間に津波が来たらどうするのか。
 - ・(県回答)歩いて避難することを原則としている。
 - ・足腰の悪い年寄りがあるが、早く歩いたり走ったりできないお年寄を歩かせるのは酷だ。
 - ・(県回答)そういう方は車を使ってもよい。逆にそういう方が早く避難できるように皆さんは車を使わないようにすることが皆が協力して避難することになる。【討議結果】：**費用対効果や建築限界の点から整備は難しい。**
今後、地域で要援護者の避難をどうするのか、トータルの話を議論する必要がある。
- **現在、駐車場で夜間に花火をしている。防災緑地として整備された後、樹木があるため花火をされると火事の危険性がある。夜間の防災緑地の管理や対策、駐車場の管理について考える必要がある。**
【討議内容】：地元の方は花火とゴミの問題で困っている。一番の原因は駐車場。
 - ・花火は昼間はやらない。夜間は駐車場を閉鎖する。管理人がいれば使えない。
 - ・家や人に向かって花火を行う等の迷惑行為しか、警察が花火を取り締まることはできない。
 - ・花火の問題が出たがゴミもセットで考えるべきだ。人家に近いところに駐車場ができるので駐車場の管理をきちんと決めないとまわりの住民に迷惑がかかる。
 - ・駐車場がない防潮堤付近で花火をする人はいない。【討議結果】：地域のために駐車場は必要だが、花火の人に来て欲しくないということを含めると、**駐車場はつくるが夜間の利用規制をすればよいのではないかとアイデアが出た。**
- **街灯は、どういう仕組みで点灯するのか。LEDのような長持ちするものなのか。**
【回答】：**照明器具は約59ワットのLEDを想定。**15mピッチで設置すると、園路の平均は計算上では0.5ルクス(満月時の明るさ)
- **シェルターのテントの素材は燃えないのか。**
【回答】：**藁は化学繊維なので基本的には燃えるが、難燃性ではある。**
- **デッキステージや遊具、ベンチは木製だが、耐久年数は大丈夫なのか。**
【回答】：木材であれば県産の木が使えることと、**大きい木であれば腐るのに時間がかかる。**耐用年数は設置状況により変わるが、スギより**ヒノキの方が耐用年数が長いので、ヒノキをできるだけ使用する。**
- **地下道は将来どうなるのか。**
【回答】：**将来的に閉鎖しない予定。**
- **ワークショップの意見が反映されて計画が決まるが、結果は地域に説明会として開かれ、県からの説明はあるのか。**
【回答】：**事業が始まる前に説明会を行う。**工事途中で見て気付いた点などを言っていたら、皆さんと一緒につづけていきたい。
- **管理の点について、今後いろいろ出てくると思うが、市や県で管理する人(掃除する人)を雇用することはできないのか。**
【回答】：マツについては防災機能を持たせるために、間伐や剪定には技術的なものを要するので**基本的には県が管理を行う。**日常のゴミ拾いや草刈など、できるものについては県と住民の方々と一緒にやっていきたい。

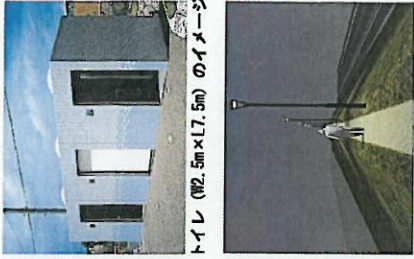
上記の討議内容・結果を反映した、ワークショップ最終計画案として整理しました。

進行係から一言

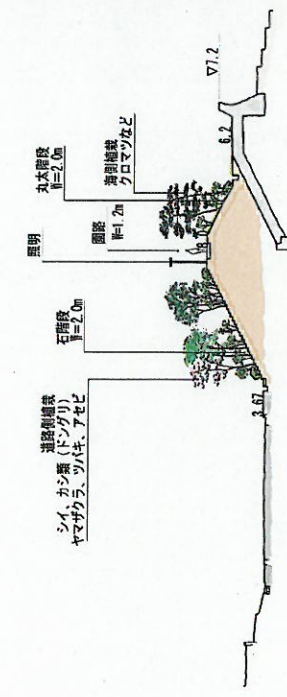
ご縁がありまして、関西からワークショップのお手伝いをさせて頂きました。震災復興にかぎらず「まちづくり」には主役である住民の皆様への参画が必要不可欠です。ワークショップは、多くの参加者がお互いに意見を出し合い話し合うことにより、自分の考えを見直すきっかけとなったり、多様な意見の中から一定の方向を見出すのに適した会議の方法です。今回は、たまたま防災緑地の計画づくりがテーマでしたが、地域には他にもいろんな課題があるはずで、それらの解決のためにワークショップをご活用いただければと思います。最後に、ワークショップに参加していただいた皆様の真剣なご討議と進行へのご協力に感謝いたしますとともに、永崎地区のますますのご発展をお祈りいたします。



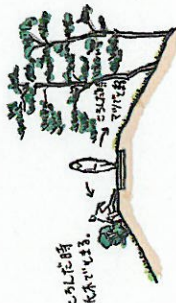
照明灯 (H5m) のイメージ



トイレ (W2.5m x L7.5m) のイメージ



歩く・走るゾーン F-F断面プラン 1:200



いわき市立
永崎保育所

駐車場予定地

